

「学力向上P D C Aサイクル」の確立に向けた5つの柱

学力向上マネジメント支援事業では、5つの市教育委員会において組織的に学力を向上させる中核的な組織を位置付け、市全体で学力向上を推進してきました。3年間の取組で、一人一人の子供の実態を丁寧に把握し、学習内容の確実な定着を図るために、次の5つのことを大切にしてきました。各学校においても広く御活用ください。

1 学力向上を推進していくための中核的な組織づくり

各市町村教育委員会によって位置付けられた学力向上を推進する中核的な組織（例：〇〇市学力向上推進委員会）において作成された学力向上推進プランを基に、学校の実態を踏まえた学力向上推進プランを作成する。市町村教育委員会と連携を図りながら、学校全体で組織的に学力向上P D C Aサイクルの推進・検証を行う。

2 全国学力・学習状況調査問題，調査結果を全職員で共有・授業改善

全国学力・学習状況調査問題，調査結果を全職員で共有し，具体的な授業改善や指導計画等へ反映させる。

3 学力調査，検査等による客観的データに基づいた検証・指導対策

学力調査・検査等（例：4月【リサーチ】と12月【チェック】）の客観的データに基づき，児童生徒一人一人のつまずきを把握する。児童生徒の課題分析，指導の効果等を検証し，実態に即して短期及び中・長期的指導対策を講じる。

4 学習のつまずきを解消する時間・期間の設定

年間指導計画を工夫して児童生徒の学習のつまずきを解消する時間・期間を設定し，当該学年における学習内容を一人一人確実に定着させて進級・進学させる。

5 学びの系統性・連続性を重視した小中連携の推進

中学校区などを単位として，各教科等の系統性を踏まえ，共通の目標を設定する等，学びの連続性を重視した小中連携を推進する。授業と連動した家庭学習や一人一人の実態に応じた課題の出し方について工夫するとともに，家庭での過ごし方（スマホやゲームの使い方等）について，児童生徒に主体的に考えさせる。

確実な学習内容の定着を図る「学力向上P D C Aサイクル」

